

<p>③ 音声導入や副教材の有効活用による、読解力育成の研究 (1～3年次)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音声教材利用を継続し、各課ごとの内容把握に努め、状況に応じた表現を身につけさせる。 ・目標を設定して副教材を精選し、速読・精読の力を伸ばす。特に速読演習を徹底し、内容理解のスピードアップを図る。 ・週末課題により総読破量の増加を図り、英語学習に対する動機付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテストによって、内容理解度を評価する。 ・毎回ほぼ同じ量の英文を読ませ、かかった時間を測定し推移を見る。 ・週末課題の定着をはかるために、定期的に確認テストを実施する。
<p>④ 効果的なリスニング能力を高める指導法の研究 (1～3年次)</p>	<p>(1) 情報機器等を利用し、ディクテーションの授業を展開する。</p> <p>(2) 外国映画を教材に用いた指導</p>	<p>(1) 英語コミュニケーション能力テストを通し、成績の推移で評価をする。</p> <p>(2) フィルインブランク形式のプリント等を用いて評価する。</p>
<p>⑤ 国際理解教育（異文化理解）をテーマにした「総合的な学習の時間」を通して生徒の英語学習に対するモチベーションを高める研究。 (1～3年次)</p>	<p>(1) 「English Day」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週のうち1日を「English Day」とし、休み時間・昼休み等に友人や先生と積極的に英語で会話させる。 ア 「English Day」テキストの作成 学校内で交わされる典型的な会話を集めたオリジナルテキストを作成する。 イ 「English Day Staff」による突撃インタビューの実施 毎週木曜日の昼休みに ALT や留学生を含めた English Day Staff が校内を回り、生徒に英語で質問をする。その様子はビデオカメラで記録し、オーラル・コミュニケーションの授業等で教材として使用する。 ウ 「English Day」の朝、ALT、校長、教員による英語のスピーチを放送で流し、内容の確認をさせ「English Day」の活動を徹底させる。 また、昼休み開始直後に「Today's Expressions」の会話を放送で流す。 エ 環境作りと意識付けのために、校舎内や教室内の掲示物をなるべく英語にする。 <p>(2) 講演会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA、ユニセフ等の講師を招き異文化理解のための講演を実施する。 <p>(3) 国際理解交流体験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 筑波国際センターを訪問し、研修員と異文化交流を体験させる。 	<p>(1) 「English Day」の活動については、毎回「Evaluation Form」を配布し、生徒本人の自己評価、生徒同士の相互評価、担任の総合評価を行う。</p> <p>(2) 講演会については、終了後アンケート実施する。</p> <p>(3) 国際理解交流体験については、実施後に感想文を書く。</p>
<p>⑥ 国際理解教育として、国際交流に学校全体で取り組む研究。 (1～3年次)</p>	<p>(1) 英語クラブの組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ALT との協力の下に、放課後の活動や英語合宿を通し、スピーチの指導を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的コミュニケーションを図ろうとする態度、継続する態度を評価する。